

くまもと戦跡ネット出前平和講座

〈戦後79年 柿原空襲と熊本の空襲を知ろう!〉実施計画案

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

- 1 活動名 **〈戦後79年 柿原空襲と熊本の空襲を知ろう!〉**
～熊本で初めての空襲である柿原・花園空襲の講話と学習発表会
「今、平和を考える」に向けての事前学習～
- 2 日時 **令和6年11月28日(木) 5・6時限 13時50分～15時30分**
- 3 場所 **熊本市立花園小学校 音楽室**
熊本市西区花園6丁目9-15 TEL 096-355-0258
- 4 対象 **熊本市立花園小学校6年児童 70名(2学級・1特別学級)**
※担当: 6年宮丸賢一先生 他2名
- 5 講師 **くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生**

7 日程・進行等

(1) 開会・挨拶・紹介 [13:50]

(2) 熊本初の空襲「柿原(かきばる)空襲」のこと [13:55～14:25]

「柿原・花園空襲」が、熊本初空襲で、ほんと!!
「何で、津下さんの家に爆弾がおとされたの?」

- ことしは太平洋戦争「戦後79年」
- 中国延安からの八幡製鉄所や大村への初期B29空襲
- マリアナ諸島からの「第一回熊本大空襲(7/1)」
- 沖縄からの極東航空軍による、本土決戦に向けての「第二回熊本大空襲(8/10)」
- 絶え間ない機銃掃射、終戦間際の「伝単」投下

〔休憩(10分間)〕

(3) 空襲の資料に触れてみよう! [14:35～14:55]

- 「焼夷弾はいがいと重い!」「爆弾の破片はギザギザ、こわいな!」
現物資料「M69小型焼夷弾、機銃弾、爆弾片、伝単 他」
- 「防空ずきんで、爆弾から自分の命は守れたの!」
現物資料「ちいちゃん(防空ずきん、モンペ、防毒面、包帯、干し飯 他)セット」

(4) 質問・感想発表・謝辞・閉会 [14:55～15:15] ※その後感想記入

- Q1 B29はどんな爆撃機! 爆弾は何発つんでいたの! 被害は!
- Q2 柿原空襲B29はどこから来たの! 機長はだれ! その人達は怎么样了の?
- Q3 調べた「ネット情報」は正しかったの? 長崎原爆と関係はなかったの?
- A 1944年11月21日昼前、大村の航空機工場(第二航空工廠)を目指した中国延安から出撃したB29爆撃部隊から、航路を離れた迷子となった一機が、第二目標・熊本市に向い、偶然に見えた柿原の津下さん家周辺に通常・焼夷弾を落とした!



熊本空襲の様子1945年8月10日

8 その他

- 児童・職員用に本会作成の平和継承リーフレット『空襲下の熊本』『M76焼夷弾と熊本空襲』『松橋空襲』を提供する。
- 準備物: パソコン(パワーポイント入り)、プロジェクター、マイク、展示机 他
- 展示物: 現物資料「M69小型焼夷弾、機銃弾、爆弾片、伝単 他」
戦時資料貸出キット「ちいちゃんセット(防空ずきん、モンペ、鉄かぶと・戦時学用品)」
- 当日、高谷は12時半頃に来校し、会場を準備する。
- 活動紹介のため、報道機関への連絡は、学校及びくまもと戦跡ネットの双方より行う
- ご取材の報道機関は、事前に「江藤教頭」までご連絡ください。**



連絡先
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生
 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5
 携帯 090-1513-5528
 メールアドレス takayanagi912@yahoo.co.jp
 会HP https://kumamoto-senseki.net/

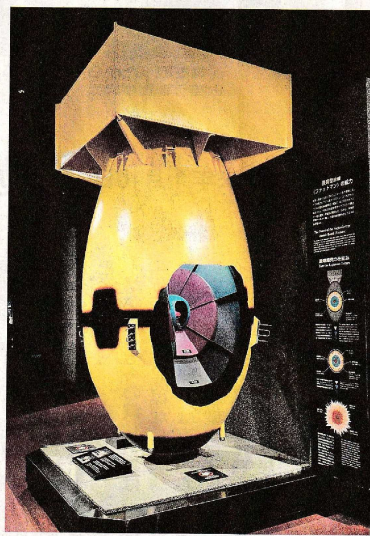
【核兵器】

ことしのノーベル平和賞は、広島や長崎で原子爆弾(原爆)の被害にあった人たちがつくる日本原水爆被害者団体協議会(被団協)におくられます。「核兵器」をなくすよう、世界にうたった活動がみとめられました。

核兵器には原爆や水素爆弾(水爆)などがあります。原爆は、ウランなどの物質にある小さな原子核がわかれる反応を利用し、高い熱や強い爆風、強い放射線を出す兵器です。水爆は、原爆を使って水素などの原子核をむすびつけ、原爆より強大なエネルギーを出すおそろしい兵器です。

1945年8月、日本と戦っていたアメリカが広島と長崎に落とした原爆で、その年末まで

世界に今も1万以上…心配する声



長崎に投下された原子爆弾の機型
=2015年、長崎市の長崎原爆資料館

に計約21万人が亡くなったとされます。戦後にはアメリカとソ連(今のロシア)が核兵器の開発をきそい、アメリカの水爆実験のため、太平洋で日本の漁船員が放射性物質をあびる事件も起きました。

世界には今も1万以上の核兵器があり、各地で争いが続くと、核兵器が使われる心配もありま

ニュースの
ヒント

す。戦争で原爆の被害を受けた日本は、地球上から核兵器をなくすための行動を求められています。

「核減ってない 人類への警告」

平和賞受賞 県被団協訴え



県被団協の記者会見で発言する工藤武子さん=23日午後、熊本市

日本原水爆被害者団体協議会(被団協)のノーベル平和賞受賞決定を受け、熊本県原水爆被害者団体協議会(県被団協)が23日、熊本市内で記者会見を開き、武田頼弘会長(80)は「喜ばしいことだが、受賞によって核が減ったわけではない。人類への警告だ」と危機感を示した。

7歳の時に長崎の爆心地から約3キロの自宅で被爆し、昨年8月9日の平和祈念式典で被爆者代表を務めた工藤武子さん(86)は、今も小学校で体験を伝える活動をしている。授与決定に「被団協を知らなかった人も耳を傾けてくれるのでは」と期待を寄せる一方、平和や核兵器について「若い世代にはもっと自分事として考えてほしい」と強調した。

被爆者の高齢化が進み、県被団協の会員のうち被爆者は今年3月末で592人で、平均年齢は86歳となった。被爆2世の原田俊二さん(78)は、体験継承の担い手不足に「2世も70代。より若い世代に実相を伝えなければ」と懸念した。